～おたより～

# 第８回難聴学級担任等学習会の様子

１月１８日水曜日、第８回は３名の先生方にご参加いただきました。来年度に向けての思いをめぐらせながら多忙な３学期を送っていらっしゃる頃だと思います。「来年度の教育課程について」の情報交換をし、「自立活動の時間の確保」や「理科・社会の学習について（難聴学級か交流学級か？）」など各学校の様子をお話しいただきました。

国語と算数、音楽は難聴学級でやりたいと考えています。自立活動は週３時間ですが、他の支援学級との合同の活動が多く、自学級だけでの活動はできていません。

難聴学級だと担任と子ども、１対１の授業となりますが、授業によっては校内の工夫で少人数での学習活動を設定することもできています。子ども同士「分からない。」と言いやすかったり、自分の考えが発言しやすかったりということがあります。コミュニケーション力、言葉を増やすためにも誰かと関わる環境も大切だと考えています。

自立活動でコミュニケーション力をつけるためにどういうことが必要なのかについて「難聴学級」だからこそ丁寧に進めていけるよさがあると思います。校内事情がどこも悩ましいですが、担任が１人で抱えることではなく、学校全体がその子のことを理解して、支援していくことが大切だと感じています。

## ＜　情報提供（元担任の実践から）＞

○交流学級での担任の関わりとは？

→そばで教えるだけでなく、離れていても集団の中で、どこで困っているか確認することに意味がある。はじめは丁寧に支援するが、少しずつ支援を減らしていく。難聴学級担任が交流学級に入っていないと状況の把握が難しいので、遠くからでも授業の様子を見ておくことは大切かもしれない。自分の場合、道徳は一緒に行くようにしていた。難聴児は他者の気持ちを想像する（理解する）のが難しい面があったので、難聴学級で道徳の内容を再度、「こんな気持ちだったんだね。」とふり返る時間をとることもあった。

○理科・社会の学習について

→理科、社会の教科書には普段使わない言葉がたくさん出てくるので知らない言葉が多くなる。単元によって事前に個別で新しく学習する言葉を確認した上で交流学級に入ることがあった。交流学級の担任との連携も必要。

○自立活動の時間とは？

→基本として個別の指導計画に基づいて個の課題に向き合う時間。合同でやっていても個々のねらいは違うので、そこを明確にして指導することが大切になってくる。合同での自立活動の学習のよさもあるが、子どもとしっかり向き合える個別の時間を設定する工夫も必要。

※詳しくは「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編」P21～26 参照

→「自立活動」でやりたいことがいろいろあって、時間が足りないと感じていた。内容によっては朝の会の時間の一部を自立活動の時間に充てることもあった。

※“自立活動は、授業時間を特設して行う自立活動の時間を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければならない”とされています。

次回は、今年度最後の学習会になります☆　　令和５年２月１４日　浜田ろう学校スタッフ一同